「生きる力」として必要なリテラシーとは

会計教育

未来に羽ばたく子どもたちがよく社会活躍するためには、経済活動を理解するための「会計リテラシー」を身に付けることが不可欠だ。現行の学習指導要領解説にも「会計情報の活用」が取り上げられたところだが、学校現場では授業の進め方や教材に苦慮する向きも少なくない。会計とはなぜ必要なのか、そして会計リテラシーを伸ばす授業づくりはどう進めればよいのか。日本公認会計士協会の茂木哲也会長と、上智大学総合人間科学部教育学科の奈須正裕教授の対談から「生きる力」としての会計リテラシーの重要性に迫る。

日本公認会計士協会
会長
茂木 哲也

慶應義塾大学経済学部卒。1993年公認会計士登録。新日本有限責任監査法人（現EY新日本有限責任監査法人）経営事務理事（2016年～2019年）、日本公認会計士協会常務理事を経て、2022年7月より現職。

上智大学 総合人間科学部
教育学科教授
奈須 正裕

東京大学大学院教育学研究科修了、博士（教育学）。国立教育研究所教育方法研究室長、立教大学文学部教授等を経て、2005年より現職。2023年12月より中央教育審議会委員教育課程部会長。著書に『個別最適な学びと協働的な学び』（東洋館出版社）など。

中高の授業を独自教材でサポート

茂木　私たち日本公認会計士協会は、公認会計士の自主規制団体として、公認会計士法に基づく公認会計士の職業規範を整備したり、公認会計士の継続的な研修を実施したりするなど、その質的水準の維持・向上を担っています。

加えて、経済社会のインフラとも言える会計リテラシーの普及に力を入れています。会計リテラシーは公認会計士などの専門家や、財務・経理に携わる人だけが必要とするものではなく、あらゆる人たちが社会のさまざまな場面で必要なのと捉えています。

2017・18年度に周知・徹底された学習指導要領解説の中学校社会編、高等学校公民編では、「会計情報の活用」が取り上げられています。私たちが学校の先生方にアンケート調査をしたところ、授業での教え方に悩まれる方も少なくありませんでした。そこで学習指導案や生徒用教材、ワークシートなどを集めた「授業パッケージ」を準備したり、サイトにて無償公開をしています。

私たちは会計に関する専門知識は持っていますが、実際の授業でどう教えていくかについての経験は持ち合わせていません。そこで教育関係者の皆さまにも参加頂きまして、限られた時数で現場の先生方が教えやすいような工夫を盛り込んでいただきました。身近な企業の例を取り上げ、生徒と先生がインタラクティブに授業を進めていけるような授業が出来上がりました。

そして先生方をさらに多様な材料を、子どものニーズに応じてどう組み合わせ、活用するかを考えた「判断したりする最終責任を持つ役割を担います。日本公認会計士協会さんの「授業支援パッケージ」も会計を学ぶ教材の一つと捉え、先生方が自分の授業に取り入れて有機的に用いていくことが望まれます。

茂木　会計教育はこうあるべき、という押し付けではなく、先生方が授業をする際の選択肢の一つになればと思っています。一つとして使ってもらってもよいですし、レシピとして作れば子どもたちにまでの公認会計士はこれまで、常識通りに作れるでしょう。

これからの社会で必要な資質・能力とは

奈須　これからの教育は「知っていることではなく、知っている知識を初めての場面で活用し、判断・表現・コミュニケーションなどの対人関係の資質・能力を伸ばすことを目指して改訂されました。小学校の算数も、「問題が解けたら終わりではなく、なぜそうなったかを説明するような授業へと変わってきています。

知識を問題解決の道具として身に付けるには、知識を暗記させるように教えるのではなく、具体的でリアルな文脈で活かせる場面が必要です。今、例えば「駅前にハンバーガーショップを出してみよう」というテーマであれば、出店する場所や売上、経費を想定しその時に「会計」の知識を用いれば、「なぜ、こうなるのか」の知識が生きて使えるようになります。

ただ、このような教材を作るには現場の先生の力だけでは難しいことたくさんあります。「会計」を「ケーキ」に置き換えて生徒に新しい知識や概念を学ばせます。

これは先生方が仕掛けることなのですが、こうした「子どもたちは町のケーキ屋さんより安い値段をつけて完売させます」というケーキ屋さんの話を聞いて、「町のケーキ屋さんは、どうしてあんなに高いのか？」と校長先生に尋ねました。すると校長先生が「請求書」を子どもたちに差しだしたのです。「君たちはコロッケを作るのに家庭科室を使っているでしょ。それから担任の先生にも手伝ってもらったね。これらの費用はコロッケを作るのに家庭働きをしていて、どう回るのか。利益を上げるというのはどのような営みなのか。運用や資本という概念をこれまで学校で教えてこなかったことの結果だと思います。

高まる会計教育への期待

会計教育で生かされる学びや場面

奈須　ある小学校の総合的な学習の時間で、「コロッケを作って販売しよう」という授業があります。子どもたちは町の商店街を見学に行き、「売れる商品を作るにはどうしたらいいか」を考えます。子どもたちは、「コロッケ屋さんより安い値段をつけて完売させます」というケーキ屋さんの話を聞いて、「町のケーキ屋さんは、どうしてあんなに高いのか？」と校長先生に尋ねました。すると校長先生が「請求書」を子どもたちに差しだしたのです。「君たちはコロッケを作るのに家庭科室を使っているでしょ。それから担任の先生にも手伝ってもらったね。これらの費用はコロッケを作るのに家庭働きをしていて、どう回るのか。利益を上げるというのはどのような営みなのか。運用や資本という概念をこれまで学校で教えてこなかったことの結果だと思います。

茂木　経済に関する教育への貢献が「世間見」だと知るのです。

三方良しは、経済活動の原理の一つですよね。

奈須　そうしたリテラシーを身に付けていくためには、子どもたちは、どうしたらよいのでしょうか。

茂木　大人は「まち草い」と感じていても、子どもは社会のことについて知りたがっているのではないでしょうか。私たちは会計リテラシーを伝える子ども向けの講座を地域で開いていますが、子どもたちは私たちが想像しているよりも積極的です。

「利益」や「もうけ」とは、言葉を換えれば「付加価値」を意味します。経済活動によって新たな価値が生み出され、私たちの生活や社会の成長に繋がることを理解するうえで、順位性が高い子どもたちは、「会計」の仕組みについて学ぶことは意義があると思います。

奈須　物事のしくみの先方に理解してもらう「からくり」が分かることは子どもたちにとって「楽しい」ことですよね。

情報活用能力としての会計リテラシー

茂木　IT化が進歩する現代において、会計リテラシーを学ぶことは情報活用、情報選択の力も伸ばしたり、子どもたちがよく社会活躍するためには、経済活動を理解するための「会計リテラシー」を身に付けることが不可欠だ。現行の学習指導要領解説にも「会計情報の活用」が取り上げられたところだが、学校現場では授業の進め方や教材に苦慮する向きも少なくない。会計とはなぜ必要なのか、そして会計リテラシーを伸ばす授業づくりはどう進めればよいのか。日本公認会計士協会の茂木哲也会長と、上智大学総合人間科学部教育学科の奈須正裕教授の対談から「生きる力」としての会計リテラシーの重要性に迫る。

これからの社会で必要な資質・能力とは

奈須　これからの教育は「知っていることではなく、知っている知識を初めての場面で活用し、判断・表現・コミュニケーションなどの対人関係の資質・能力を伸ばすことを目指して改訂されました。小学校の算数も、「問題が解けたら終わりではなく、なぜそうなったかを説明するような授業へと変わってきています。

この世界の潮流を受け、知識だけでなく「思考力、判断力、表現力、コミュニケーションなどの対人関係の資質・能力を伸ばすことを目指して改訂されました。小学校の算数も、「問題が解けたら終わりではなく、なぜそうなったかを説明するような授業へと変わってきています。

現行の学習指導要領も、高校で消費者教育などの充実が求められています。

そうなると、先生だけでは準備が間に合いません。新しく教える内容については自前主義を脱して、よい材料を専門家や民間の知恵や力を借りても、問題が解けたら終わりではなく、なぜそうなったかを説明するような授業へと変わってきています。

そうした「アウトソーシング」の時代に入っています。

そして先生方をさらに多様な材料を、子どものニーズに応じてどう組み合わせ、活用するかを考えた「判断したりする最終責任を持つ役割を担います。日本公認会計士協会さんの「授業支援パッケージ」も会計を学ぶ教材の一つと捉え、先生方が自分の授業に取り入れて有機的に用いていくことが望まれます。

茂木　会計教育はこうあるべき、という押し付けではなく、先生方が授業をする際の選択肢の一つになればと思っています。

一つとして使ってもらってもよいですし、レシピとして作れば子どもたちにまでの公認会計士はこれまで、常識通りに作れるでしょう。

あるルールでは対応しきれない事象が出てきたときに、公認会計士はこれまでの公認会計士などを踏まえて適切な会計処理を考えることが求められます。問いへの答えを探すだけでなく、そもそも現実の経済事象を捉え、ここに課題があるとかという「問い」を見つけるのも大事な能力になります。

会計教育で生かされる学びや場面

奈須　ある小学校の総合的な学習の時間で、「コロッケを作って販売しよう」という授業があります。

茂木　経済に関する教育への貢献が「世間見」だと知るのです。

三方良しは、経済活動の原理の一つですよね。

奈須　そうしたリテラシーを身に付けていくためには、子どもたちは、どうしたらよいのでしょうか。

茂木　大人は「まち草い」と感じていても、子どもは社会のことについて知りたがっているのではないでしょうか。私たちは会計リテラシーを伝える子ども向けの講座を地域で開いていますが、子どもたちは私たちが想像しているよりも積極的です。

「利益」や「もうけ」とは、言葉を換えれば「付加価値」を意味します。経済活動によって新たな価値が生み出され、私たちの生活や社会の成長に繋がることを理解するうえで、順位性が高い子どもたちは、「会計」の仕組みについて学ぶことは意義があると思います。

奈須　物事のしくみの先方に理解してもらう「からくり」が分かることは子どもたちにとって「楽しい」ことですよね。

情報活用能力としての会計リテラシー

茂木　IT化が進歩する現代において、会計リテラシーを学ぶことは情報活用、情報選択の力も伸ばしたり、子どもたちがよく社会活躍するためには、経済活動を理解するための「会計リテラシー」を身に付けることが不可欠だ。現行の学習指導要領解説にも「会計情報の活用」が取り上げられたところだが、学校現場では授業の進め方や教材に苦慮する向きも少なくない。会計とはなぜ必要なのか、そして会計リテラシーを伸ばす授業づくりはどう進めればよいのか。日本公認会計士協会の茂木哲也会長と、上智大学総合人間科学部教育学科の奈須正裕教授の対談から「生きる力」としての会計リテラシーの重要性に迫る。

日本公認会計士協会
会長
茂木 哲也

上智大学 総合人間科学部
教育学科教授
奈須 正裕

会計情報を活用することの意義や重要性が分かるコンテンツを提供しています

教材　これを読めば「会計」の教え方がすぐにわかる！

「会計情報の活用」
教員のための授業実践ガイドブック

◆1章 会計の基礎知識と授業での取り扱い方
会計を学ぶ必要性や指導のポイント。小単元別の「会計」の取り扱い方。プリン屋さんを経営した際の貸借対照表と損益計算書の読み方をご紹介。

◆2章 会計を考えるきっかけとなる問い
授業の導入やいつもの授業の一部に使える、「会計」にまつわる6つの問いをご用意。生徒の興味関心を引く問いとなっています。

◆【番外編】歴史の視点から会計について考える
「会計」やその考え方がどのように役立ち、活躍したのかを歴史の視点から解説。

QRコード、URLから無料でダウンロードできます
https://jicpa.or.jp/about/activity/basic-education/tools.html

学習動画　日常生活を舞台に「会計」の意義を学べる

「一言のシン」 第5話まで配信中！

第1話 2つの想い　経済活動における信頼とは何か。
第2話 シンの選択　身近な日常生活における「お金の使い方」について
第3話 Get the chance!　「お金で比較すること」の大切さについて
第4話 ウマい話に気をつけろ　信頼できる情報か見極めるには？
第5話 会社の成績表って？　決算書はどのようなことに役立つのか

QRコード、URLから無料でご視聴できます
https://jicpa.or.jp/about/activity/basic-education/shin.html

本教材に関するお問い合わせ先
日本公認会計士協会　CSR本部会計教育担当　〒102-8264 東京都千代田区九段南4-4-1 公認会計士会館
メールアドレス：kyoiku@sec.jicpa.or.jp

信頼の力を未来へ jicpa 日本公認会計士協会